

第3回地域政策懇談会（西三河地区①） 意見交換の概要

平成25年6月24日（月）午後0時45分～2時15分

愛知県西三河総合庁舎 7階 701会議室

（岡崎市 内田康宏市長）

- ・ リニアの開業を三河地域に広く活かしていくため、東西の三河地域が連携した新たな三河都市圏の形成に向け、愛知環状鉄道的高速化、複線化や東海道本線への乗り入れなど、三河地域的高速鉄道ネットワークづくりを進めていくことが必要である。
- ・ 岡崎市中心総合公園は、西三河地域の広域防災拠点の候補となっている。各都市の防災拠点や災害拠点病院など、災害時に主要な役割を担う施設のネットワーク化を念頭に置いた幹線道路網の整備をお願いしたい。
- ・ 西三河南部東医療圏では、勤務医不足が生じている。岡崎市民病院や愛知県がんセンター愛知病院などの公立病院が、地域の救急医療をしっかりと支えていかなければならないと考えている。
- ・ 歴史的文化遺産を活用した観光産業を育成するため、東岡崎駅前の明代橋と、中心市街地にかかる殿橋を活かした「ツインブリッジ構想」を推進している。両橋は県道であることから、渋滞解消のための拡幅など、計画の実現に向けてご協力をお願いしたい。

（豊田市 太田稔彦市長）

- ・ モノづくりの研究開発機能の強化に向け、「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」の着実な推進と、そのアクセスとなる国道301号の整備をお願いしたい。
- ・ 市では、スマートコミュニティの取組を進めており、なかでも次世代自動車の普及・活用が重要と考えている。そのためには、充電設備、水素ステーションといった社会インフラが不可欠であるが、その整備については、市町村レベルだけでなく、県全体の課題として進めて欲しい。
- ・ 中山間地域の森林整備は大きな課題にとらえ、取り組んでいるが、間伐が進まない。その要因は、木材が市場に流通しづらい点にあると考えている。木材が市場に流通する手立てを打って欲しい。
- ・ 内陸部にある豊田市は、震災・津波発生時に、後背地としての役割を担うことになると考えている。その際、沿岸部からの南北軸となる衣浦豊田道路、国道155号豊田南バイパス、国道153号豊田北バイパスは、伊勢湾岸、東名高速、東海環状の3つの高速道路をつなぐ役割を果たすので、早期整備をお願いしたい。さらに、信州につながる国道153号の伊勢神改良の前倒し整備をお願いしたい。

（みよし市 久野知英市長）

- ・ 商工業の振興に向け、市独自で基金をつくり、活性化に資する提案を支援する制度を創設した。県としても応援いただけるとありがたい。

- ・ 豊田知立線のバイパスについて、県には予算をつけていただいたが、国の予算が付いておらず、完成の予定が滞っているので、よろしくお願いしたい。
- ・ 一般県道駕鴨みよし線は、用地買収が済んでいないこともあり、整備が進んでいないが、豊田厚生病院へのアクセスも高まるので、よろしくお願いしたい。
- ・ 国道 153 号は 2 車線で渋滞状況にあるので、早期 4 車線化をお願いしたい。
- ・ 地震の際、当市は、津波の被害を受ける沿岸部の後方支援の役割を果たしていくことになる。様々な面で県の力を借りることになるので、よろしくお願いしたい。

(幸田町 大須賀一誠町長)

- ・ 名豊道路については、幸田芦谷 IC から蒲郡 IC が来春開通し、西尾まで 4 車線化が進んでいるが、幸田町内で大渋滞を起こす可能性があるため、早期全線開通と 4 車線化をお願いしたい。
- ・ 広田川の治水・防災対策を引き続き推進していただきたい。
- ・ 中部国際空港とモノづくり地域を結ぶ名浜道路の整備促進をお願いしたい。
- ・ 地の利を活かし、民間企業の立地の動きが見込まれるため、県企業庁において工業団地の開発を推進してほしい。また、企業進出に向け、土地利用など、法規制の柔軟な運用をお願いしたい。
- ・ 西三河唯一の町であり、持続可能なまちづくりのため、国・県の支援をお願いしたい。

(岡崎商工会議所 古澤武雄会頭)

- ・ 愛知を支える中小企業の活力強化に向けて、下請けからの脱却や新たな起業、創業が次々と生まれてくるような異次元の成長戦略を、愛知からいち早く打ち出してもらいたい。
- ・ 平成 26 年度の新東名の県内区間開通を機に、西三河を周遊するような観光ルートの開発について、地域一体となって進めていくつもりであるが、県においても、ご支援やご検討をお願いしたい。
- ・ 県の橋梁長寿命化修繕計画では、予防保全の取組の重要性が打ち出されている。予防保全を県と市町村が一体となって進めるとともに、それぞれの市町村の事業者が多く参画できるような仕組みづくりを検討いただきたい。
- ・ モノづくり愛知にとって、技術の伝承とそれを担う人材育成が重要である。岡崎では、岡崎工業高校の生徒に対して、地元の中小企業が現場で指導を行っており、卒業後、地元企業への就職が増えてきている。工業高校などの専門高校等と産業界が連携する仕組みも今後必要である。

(豊田商工会議所 三宅英臣会頭)

- ・ 製造業の中小企業は、円安による輸入材料や燃料の高騰によって、経営を圧迫されており、また、来年に想定されている消費増税についても価格転嫁がしづらい。愛知県中小企業振興基本条例に即した施策の着実な実践と、県として、資金供給の円滑化や人材育成支援など、中小企業への支援策の拡充をお願いしたい。

- ・ 「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」の着実な推進と、そのアクセスとなる国道 301 号の整備をお願いしたい。
- ・ 津波被害が想定されない豊田市は、県内の救援拠点としての役割を担うと考えているため、国道 155 号豊田南バイパス、国道 153 号豊田北バイパスをはじめ、各主要道路の事業促進と早期整備をお願いする。
- ・ 休耕田を活用した農商工連携の奨励に向け、企業の農地取得について、賃借でない形での取得支援、規制緩和、多様な企業が参入できる制度の構築をお願いしたい。
- ・ 豊田市では、平成 29 年度を目標に、豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業を進めているが、駐車場の確保が重要な課題である。地下駐車場の整備に関して、一般県道豊田市停車場線の地下の掘削に関する許認可の申請の際は、よろしくお願いしたい。

（岡崎市六ツ美商工会 酒井英二副会長）

- ・ 当商工会は、零細企業が非常に多く、会員の減少等に悩まされながらも、経営指導や人材育成など、商工会の役割を果たすべく尽力している。県には、引き続き、零細企業への支援をお願いしたい。
- ・ 平成 27 年に大嘗祭の悠紀斎田が 100 周年を迎え、皇室の方をお迎えすることが決定している。悠紀斎田は都市計画道路衣浦岡崎線（主要地方道岡崎碧南線）の沿道にあるので、まだ、開通していない東海道新幹線の下の区間の開通をお願いしたい。
- ・ 西尾市と岡崎市の中心市街地の中間に位置するため、公共交通機関が非常に少ない。高齢者が多く、バスなど公共交通機関の維持をお願いしたい。

（幸田町商工会 山本雄幸会長）

- ・ 相見地区は、相見駅が開業し、大型店舗の進出が進む一方、中心市街地である幸田駅前地区は、商店街が著しく衰退している。町内の商工業振興のためには、相見地区の大型店舗の協力が欠かせない。愛知県中小企業振興基本条例第 8 条には、大企業者等の配慮等の規定（中小企業者の経営の向上への配慮や県の中小企業の振興策への協力）があるので、この規定が遵守されるよう、県の指導をお願いしたい。
- ・ 名豊道路について、全線開通と早期 4 車化をお願いしたい。
- ・ 新東名の開通は大きなビジネスチャンスであることから、幸田町から額田 IC（仮称）へのアクセス道である一般県道生平幸田線の整備をお願いしたい。

（岡崎市ぬかた商工会 平松立子会長）

- ・ 新東名が開通すると、当地は、大変交通アクセスの良い場所になるが、市街化調整区域に指定されているため、企業の立地や住民の流入が見込めない。市街化区域への指定や地区計画の策定等をお願いしたい。
- ・ 都市計画区域編入後、市街化調整区域の指定により、土地の担保価値がなくなり、今後、金融機関からの借り換え時などに影響が懸念されるため、県、市の支援をお願いしたい。

- ・ 国道 301 号だけでなく、額田からトヨタテストコースまでのアクセス道の整備もお願いしたい。
- ・ 東三河につながる道路は大型車がすれ違えないような状況であり、額田への企業進出が進まない。東三河とのアクセス道路をしっかりと整備してほしい。

（みよし商工会 鳥居鏑一会長）

- ・ 中心市街地である市役所周辺を活性化しようと、観光事業のプロジェクトをつくり、地域全体で、まちづくりに力を入れていきたいと考えているので、県としても支援をお願いしたい。
- ・ 後継者問題について、多くの相談を受けており、商工会として、頑張っていかなければならないと考えているので、支援をお願いしたい。

（藤岡商工会 阿垣剛史会長）

- ・ 日本一の藤のまちを目指し、県緑化センターとも協力しながら、官民挙げて取り組んでいる。「ふじの回廊」と県緑化センター、昭和の森へと広がる藤の植栽を進めていきたいので、ご支援をお願いしたい。

（小原商工会 加知國一会長）

- ・ 「和紙のふるさと」について、建物は市の所有となったが、用地は県が所有しており、そこに道の駅の整備をお願いしたい。
- ・ 11 月に行う「四季桜まつり」では、大渋滞が生じている。4 本の迂回路のうち、一般県道大平折平線は、三箇から大平の 1,200m の区間の道幅が非常に狭い。藤岡と小原のアクセスのためにも、改良をお願いしたい。

（足助商工会 浅井恒和会長）

- ・ かつて 6 店舗あったガソリンスタンドが 3 店舗に減っている。中山間地域においては、スタッドレスタイヤの付け替えや灯油、農機具燃料など、ガソリンスタンドは、重要な役割を担っている所以、県からも様々な指導をいただきたい。
- ・ 建設業は災害対策の担い手であり、行政も施策を進めているが、きちんと守り育てていく必要がある。そうした中で、災害時の対応は、行政との防災協定のみにまかせるのではなく、住民との信頼関係を築き、行政に頼らずとも役割が果たせるよう、商工会も間に入り、応援をしているところである。県としても、ご指導をいただきたい。

（下山商工会 近藤孝会長）

- ・ 電波法のいわゆる一市町村一電波により、旧下山村で有用に使用していた同報無線が全て撤去された。同報無線は、南海トラフ巨大地震も危惧される中での防災面だけでなく、地域の住民に様々な情報を伝達するうえでも非常に重要であり、有効であるとする。早急な対応に格段の配慮をいただきたい。

(旭商工会 三嶋秀樹副会長)

- ・ 豊田市のような広域エリアの中では、どうしても都市部に消費が流れてしまうのが現状である。中山間地域の中小商工業者を対象に、利用しやすく、個々の所得拡大につながるような施策をお願いしたい。
- ・ 中山間地域の商工業の活性化は、事業者の努力だけでは困難である。事業所の誘致、公共施設の立地など、都市計画の観点から、定住人口や交流人口が増加し、商業振興につながるアイデアをいただきたい。

(稲武商工会 大内政春会長)

- ・ 平成 24 年 10 月に米粉王国の開国を宣言し、特産品である「ミネアサヒ」等を活かした地域振興や、買物弱者である高齢者宅への商品宅配事業といったソーシャルビジネスなど、交流人口の増加や地域住民の生活支援を目指した様々な取組を進めている。
- ・ 国道 153 号の伊勢神改良が進められ、また、当地から 45 分程度の恵那市にはリニアの駅も開業予定である。このチャンスを活かし、愛知県の北の玄関口として、地域の活性化に取り組んでいくので、今後ともご支援をお願いしたい。

(大村知事)

- ・ 新しい地域づくりビジョンについては、7 月に有識者懇談会を発足させ、策定作業を進めていく。本日いただいたご意見をしっかり受け止め、反映させていくとともに、引き続き、ご意見をいただければと考えているので、よろしくお願いします。